

3/28(土)、29日(日)開催  
句界庭園  
ナゴヤゴト

2020.3

東海地方最大級規模を誇る  
日本庭園で俳句を堪能

五・七・五であらわす  
豊かで自由な世界

限られた字数の中で、季語に思いを託す。言葉を削ぎ落とし、鑑賞を受け手に委ねるのが俳句の醍醐味だ。解釈は三者三様。スペインの巨匠ピカソは、俳句を「広々とした自由」と表現したという。

「古池や蛙飛びこむ水の音」(松尾芭蕉)

一匹のカエルが水に飛び込み、水面に波紋を広げる情景を思い浮かべてみるが、オオノさんは句の新たな側面を教えてくれた。「春は啓蟄(けいせつ)といって、冬籠りの虫が地中から這い出てくる頃。ひよっとしたらカエルが何匹も飛び込み、にぎやかな様子や心情を表現しているかもしれない。俳句は読み手によって解釈が自由なんです」。

オオノさんが俳句に出合ったのは2017年。自身が主催したアート

# 春うららら

# 名律揃う 句界庭園

イベント「足助 de ハイスクール」でのことだった。リサーチのために出かけた地元の資料館で、月刊の句集を手にとった。「洗練された装丁と謄写版印刷に魅かれてページをめくると、地域住民による句が掲載されていました。驚くことに発刊は終戦直後で、詠み人は俳人ではなく、農夫や警察官、看護婦といった一般の人たちでした。日々の暮らしで目にした風景や季節の移ろいが、豊かな観察眼と素直な筆致で描かれていた。

「俳句を通して、日本語の語彙の多さや、豊かさを知った」とオオノさん。例えば、「夜が明けける」情景は、曙(あけぼの)、東雲(あけぐも)、彼誰と、数えあげればきりが無い。雪や風、光についても同様だ。時代とともに季語が変わりゆくのも興味深い。バレンタインデーやマスクなど新たな季語が生まれる一方で、蚊帳や蠅帳など現代では見られなくなったものが俳句の世界で生き続けている。

ゴエンナーレ プロデューサー  
オオノユキコさん

アートプロジェクト「ゴエンナーレ」をプロデュース。自身もWEB上で俳句に取り組んでいる。会場で見た俳句甲子園大会に衝撃を受け、句界庭園で「高校生俳句大会戦」を開催する



白鳥庭園管理事務所  
川島大次 所長

イベントでは審査員を務めるほか、クロストークに登壇。「俳句は、無くしたくない日本文化のひとつ。オオノさんや若手の俳人さんの感性に触れ、魅力を再発見していただきたい」と来場を呼びかける



という。

さつき茶会や観月茶会など、茶の湯文化に親しむ機会を提供してきた白鳥庭園。句界庭園では2日間にわたって2つの茶会を開催する。句界庭園流「茶歌舞伎」(要予約)では、複数人が持ち寄った自作の句を、作者名を伏せて選ぶ句会の要素を取り入れている。亭主を務める、茶道研究家水野莊平さんの話に耳を傾けながら、3種の茶を飲み比べ好みの味を選ぶ、優雅なひとときが楽しめる。

有楽流「武家茶席」(要予約)は、白鳥庭園初となる尾州有楽流による茶会。他派とは異なる武家流の作法を親しむとともに、思わず一句詠みたくなるような工夫を凝らしている

未経験者や子どもにも楽しんでほしいと、イベント当日は、芝生広場が俳句プレイランド「575広場」に様変わり。英語で俳句をつくったり句をテーマに作画したりと、ユニークな試みで来園者を魅了する。庭園ガイドの吟行は、29日に実施。園内を巡り、草花を愛でながら、句作にチャレンジできる。同日には、クロストーク「俳句の今ってどんな感じ?」を開催。「白鳥庭園俳句大賞」の選者である俳人3人と、白鳥庭園管理事務所の川島大次所長が登壇し、俳句とAI、生物多様性などを語り合う。

## 思いをぶつけ合う 17音の熱きバトル

イベントの目玉となるのが、28日(土) 13時から開かれる「高校生俳句大合戦!」。昨年の「第22回俳句甲子園全国大会」の出場校4校が、作品の出来やディベートで競い合う。

俳句甲子園は毎年夏に開催される俳句の全国大会。高校生5人1グループとなって句を披露し、優劣を競う。作品を読み上げたあとの質疑応答も見もので、「もっとふさわしい語句があるのではないか」などと、ときに鋭い意見がぶつかる。

「高校生俳句大合戦!」出場校のひとつである名古屋高校文学部は、古典研究会として2001年に発足。2012年、俳句甲子園地方大会に初出場した。「他校の先生から『俳句甲子園』のことを耳にし、深く考えずに、勧められるまま出場し

ました」と、文学部顧問の水野大雅先生は当時を振り返る。

結果は惨敗。「破壊的な句想ですね」と批評されるなど内容は散々だったが、意外にも生徒たちから寄せられたのは「来年もやります」という前向きな言葉だった。その後、俳句甲子園で審査員を務める俳人・山縣忍さんを外部コーチとして招聘。2014年には全国大会に初出場し、翌年にはついに全国の頂点に立った。

「高校生俳句大合戦!」では観客に加え、同校の外部コーチでもある若林哲哉さんを含む俳人3人が審査を担う。「句を選んでもらえた時の興奮は何物にも代えがたい。憧れの人たちに審査してもらえる機会に興奮しています」と第58回全国俳句大会、ジュニアの部で大会賞を受賞した鬼頭孝幸さん(高校2年生)は、開催を待ちきれない様子。当日は、高校生たちによる熱き言葉のバトルをぜひ会場で見たい。

## 若き俳人とともに 俳句の世界を楽しもう

「俳句に道具は不要で、お金もかからない。「才能がないとできない」「特別な人だけが親しむ」という俳句の先入観を打破したい」と、白鳥庭園で開催する「句界庭園」にさまざまな仕掛けを盛り込む。

イベントに先駆けて、白鳥庭園をテーマにした句を一般から募集。全国から集まった句の中から、中山奈々さんや黒岩徳将さん、若林哲哉さんら若き俳人たちが優秀句を選び、「白鳥庭園俳句大賞授与式」で発表する。



上・下) 大茶会や観覧会で行われた伝統文化教室「俳句教室」の様子



左) 今年で6回目となった俳句甲子園全国大会出場。右) 名古屋高校文学部。顧問を務める水野先生(後列右)は、株式会社伊藤園の名物企画「第二十八回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」で大賞受賞の経歴を持つ

### Information



### 句界庭園

日時 / 2020年3/28(土)、29(日)

場所 / 白鳥庭園(名古屋市熱田区熱田西町2-5)  
入園料 / 大人300円(中学生以下無料)、名古屋市内在住65歳以上(要:敬老手帳等)100円

●3/28(土)  
白鳥庭園俳句大賞授与式(11時~12時)  
高校生俳句大合戦!(13時~16時)

●3/29(日)  
茶室句会(11時~13時)参加料1000円  
①ここ惚れ句会(一の間)俳人:中山奈々  
②天邪鬼句会(汲江軒)俳人:黒岩徳将  
③助詞句会(二の間)俳人:若林哲哉  
※要予約、抹茶と和菓子つき  
その他、プレイランドやマーケットあり

問 / 052-681-8928(白鳥庭園管理事務所)  
https://www.goennale.com/  
http://www.shirotori-garden.jp/